



平成5年度指定 高指第73号

鳥田 稔弘

【雅号】宗吾 そうご

生年／昭和15年 指定技術名／銅器・彫金



いろえぞうがんかき「りゅうどう」

色絵象嵌花器「流動」

色彩豊かな表現を施すため、金、銀、銅の湯床吹きによる合金づくりから手がけ、下絵に合わせて切り抜き、巧みに嵌め込んでいく色金重ね高肉象嵌の第一人者である。意匠制作から手がけるこの作品は、象嵌の上にさらに象嵌を施す高度な重ね象嵌技術によるもので、躍動感のある細魚の群れがいきいきと表現されている。素材の性質を知り尽くした見事な感覚により、絵画のように豊かな色彩を生み出す渾身の一作である。

※湯床吹きとは、お湯の中に溶かした金属を流し入れて合金をつくる技法のこと。

平成14年作

素材・技法／青銅・焼型铸造、金、銀、赤銅、黒四分一、白四分一、四分一等の鍍象嵌

寸法／高さ30cm×幅43cm×奥行11cm

〔表彰・受賞歴〕

- 昭和33年 第45回光風会展初入選 (以後、3回入選)
- 昭和36年 第40回新日展初入選 (以後、連続4回入選)
- 昭和60年 第1回伝統工芸創作技術展 伝統工芸大賞受賞
- 平成 9年 日本伝統工芸士会功労者表彰
- 平成10年 第1回全日本伝統工芸士作品展 特選 (以後、2回特選、審査委員)
- 平成12年 伝統工芸産業功労者表彰 (経済産業局長)
- 平成14年 高岡市市民功労者表彰 全国伝統的工芸品公募展内閣総理大臣賞
- 平成15年 富山県功労表彰
- 平成19年 卓越した技能者 (現代の名工) 表彰
- 平成20年 富山新聞社文化賞
- 平成21年 黄綬褒章

〔経歴〕

- 昭和31年 父精二に師事し彫金技術全般を習得
- 昭和39年 第7回新日展に於いて外務省買上 父精二の死去により独立自営、現在に至る
- 昭和56年 伝統工芸士に認定
- 昭和58年 高岡地域地場産業センター内産業資料館御車山金具製作代表責任者
- 昭和61年 高岡市伝統工芸産業技術者養成スクール講師 (～平成30年)
- 平成 6年 高岡市伝統工芸産業技術保持者指定
- 平成 7年 高岡市美術館に飾皿「海老」色金象嵌買上
- 平成14年 高岡銅器伝統工芸士会会長
- 平成16年 国立高岡短期大学常勤講師
- 平成17年 国立大学法人富山大学芸術文化学部 講師
- 平成18年 全国山・鉾・屋台保存連合会技術者会会員 高岡市伝統的工芸品技術・技法の継承者育成事業講師 文化財修理技術者として文化庁の認定を受ける
- 平成19年 高岡巧美会会長
- 平成20年 日本伝統工芸士会副会長 富山県卓越技能院理事 地方の元気再生事業文化財等修理技術者講座講師
- 平成25年 高岡巧美会相談役

高岡銅器伝統工芸士会相談役